吉水園

吉水園は佐々木八右衛門正によって 1781 年に造られた個人庭園です。 彼はこの地域で鉄産業により財を築いた著名な一族、加計隅屋の 16 代目当主でした。

佐々木は周囲の加計地域の風景と地形を好み、山の隠れ家として吉水園を建設しました。円形の庭の中央には池があり、訪問者が散策しながら美しく手入れされた庭を鑑賞できるように設計されています。庭の奥には 1782 年に建てられたあずまや「吉水亭」があり、庭の素晴らしい景色を望む畳の中二階があります。 中二階から外を眺めると右側に森があり、太田川、そして地平線には山脈が見えます。 現在の庭は 1788 年から 1807 年にかけて京都の有名な庭師、清水七郎右衛門によって行われた改修後の姿です。

吉水園は今でも加計隅屋が客を迎えるために使用していますが、初夏の 4 日間と秋の 4 日間には一般公開されています。6 月には池の近くの樹木に卵を産むモリアオガエルを観察することができます。5 月上旬から 6 月下旬まで、カエルは庭の池の上に広がる木の枝に集まってきます。通常、一匹のメスは複数のオスと交尾し、オスは産卵時に卵子の受精を競います。そして木の枝にカエルが作った白い泡嚢に約 300 個の卵が産みつけられます。約 1 週間後、泡嚢は崩壊し、新しく孵化したオタマジャクシを下の水面に落とします。さらに約 2 か月後、若いカエルは水面から現れて自然の森の生息地に入って行き、そこで木の枝や葉に止まって過ごします。吉水園のモリアオガエルは広島県の指定天然記念物です。 11 月には、江戸時代（1603～1868 年）からあるカエデの展示のため庭園が一般公開され、毎年秋には庭が色で満たされます。